

2022.8月

女性チャレンジ応援拠点だより



コラム

「話し合い」にかける未来

厳しい暑さが続き、夏の疲れもピークに達する頃ですから十分休養し、楽しいことに時間をつかい、英気を養って、9月から年末までの多忙な日々を乗りきりましょう。

さて、『チャレンジ再発見一思いのほかあなたを拓くアプローチ』を続けます。今回は、「話し合い」にかける未来です。身近な人たちがあなたのチャレンジに、反対または反対しなくても積極的に応援はできないという状況なら、『親しき中にも礼儀あり』、努力を尽くして、こころよく見守ってもらえる状況に変えたいものです。

多くの著名人や経営者にも読まれ続けているデール・カーネギーの『人を動かす』に、「人を説得する12原則」があります。第一原則の「議論をさける」をはじめ、どれも「わかっているつもり」の12項目ですが、『言うは易く行は難し』。ここではその10.「(人の)美しい心情に呼びかける」と、11.の「演出を考える」に注目して、状況へのアプローチを考えたいと思います。

まず、理想的な場面を想定します。今回は、仮に相手を夫やライフパートナーとした話を進めます。話し合いの場を設けて、最終的には相手が、「気持ちはわかった、頑張ってみれば」とほほ笑んでくれる、そこを〈着地点〉とします。気持ちが通じて、ホッとして、元気と勇気がわいてくる、そんな瞬間をどう創っていきましょうか。

なにより、場の設定はかなり重要です。話し合いの内容からして、何かの「ついで」は避けたいものです。いつ、どこで、どのような雰囲気の場合、相手も自分も落ち着いて話せるか…。おそらく、あなたがチャレンジに向けて動きだしていることは相手の方もわかっていますね。例えば、時々勉強会へ行ったり、催しに参加したりしていることに、少々不安と不満が募っている可能性もあります。

もちろんあなたはそれを承知、その上で、話し合いの申し入れをすることになります。

そこで、事前の下準備、伏線が必要でしょう。身近な人との話し合いは特に感情的になりやすいもの。だから理性的になるモノを用意します。口頭だけでは表しきれない想いや将来への構想などを簡単な文書にまとめる、画用紙に絵や図にして表すのもいいでしょう。一つの説得材料、演出の道具にあたることもいえます。起床時間を1時間ほど早めるなど、その下準備の時間を確保し、十分に時間を使い、見てわかりやすく、自分でも納得できるものに仕上げる。数週かかるかもしれません。あなたのその姿を相手の方も見ることになれば、何をしているかわからなくても、生活習慣を変えるほどのことは、本気度を物語ります。相手の見る目が少し変わり、不安・不満の感情が微妙に解け始めるかもしれません。

説得材料が完成し、一段落したら、〈本番〉の段取りにかかります。まず日時を決めます。休日の予定のない日で、秋冬なら午後3時頃、春夏なら午後4時頃の、2時間ほどしたら外が暗くなるような時間帯がおすすめです。夕暮れの時間帯は人生を見渡す時であると、人類学者が言っています。

次に、その日時に時間をとってほしいと相手に伝えたいといけません、それ自体が第一関門です。何故？ということになりますから、さざ波が立つのは目にみえています。でも尻込みはできません、どうすれば話し合いに持ち込めるか考えます。次回はいくつかパターンを考えたいと思います。

女性チャレンジ応援拠点はあなたの想いを安心して〈話せる〉場です。みなさまのご利用をスタッフ一同、お待ちしております。

女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4階
電話&ファックス：06-7659-9640
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp
運営：大阪市立男女共同参画センター中央館

※開室日

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休室

火	水	木	金	土
10:30 ~ 12:30	18:00 ~ 20:00	13:00 ~ 15:00	10:30 ~ 12:30	13:00 ~ 15:00

※開室時間内は自由に出入りいただけます。
お気軽にお立ち寄りください。

